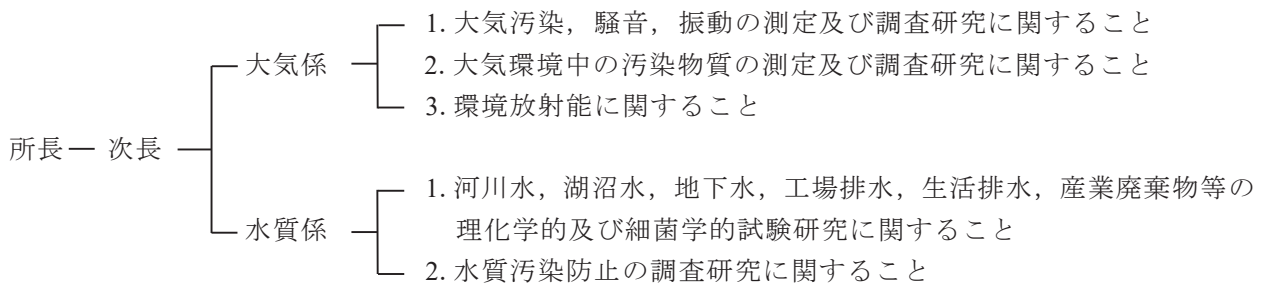


# 1. 沿革

昭和23年 6月25日	奈良県告示第167号を以て、奈良市登大路町奈良県庁内に奈良県衛生研究所を設置
昭和28年 3月31日	奈良県条例第11号を以て、奈良市油阪町に庁舎を新築移転
昭和41年 3月30日	奈良市西木辻八軒町に奈良保健所との合同庁舎を新築移転
昭和46年 3月24日	奈良市大森町に独立庁舎を新築移転
昭和46年 5月 1日	奈良県行政組織規則の改正により、総務課、環境公害課、予防衛生課の3課を設置
昭和48年 4月 1日	奈良県行政組織規則の改正により、食品化学課を新設
昭和50年 2月28日	前庁舎に接して約 1,276 m <sup>2</sup> の庁舎を新築
昭和62年 4月 1日	奈良県行政組織規則の改正により、総務課、公害課、環境課、食品化学課、予防衛生課の5課制に編成替え
平成 2年 4月 1日	奈良県行政組織規則の改正により、総務課、大気課、水質課、食品生活課、予防衛生課に編成替え
平成12年 4月 1日	県感染症情報センターを所内に設置
平成14年 4月 1日	奈良県行政組織規則の改正により、奈良県保健環境研究センターと名称変更し総務課と試験研究グループ(大気環境担当、水環境担当、食品担当、ウイルス・細菌担当)に編成替え
平成18年 4月 1日	奈良県行政組織規則の改正により、総務課、精度管理担当、大気環境担当、水環境担当、食品担当、ウイルス・細菌担当に編成替え
平成22年 4月 1日	技術担当を置く
平成23年 4月 1日	技術担当を解く
平成25年 4月 1日	奈良県行政組織規則の改正により、大気環境担当及び水環境担当は奈良県景観・環境総合センターの試験研究部門として大気係、水質係に編成替え。奈良県保健環境研究センターは奈良県保健研究センターと名称変更し、総務課、精度管理担当、食品担当、細菌担当、ウイルス・疫学情報担当に編成替え。試験研究施設は桜井市粟殿に新築移転。

# 2. 組織(試験研究部門のみ)

## (1) 機構と事務分掌(令和2年4月1日現在)



## (2) 職員構成

(令和2年4月1日現在)

区分	事務職員	技術職員				計
		薬学	獣医学	理工農学	臨床検査学	
所長	1					1
次長				1		1
大気係				6		6
水質係			1	5		6
計	1		1	12		14

## (3) 職員名簿

(令和2年4月1日現在)

係名	職名	氏名	係名	職名	氏名
	所長	白川佳朗			
	次長	高木康人			
大気係	統括主任研究員 副主幹 主任研究員 主任研究員 主任主事 主任主事	伊吹幸代 杉本恭利 北岡洋平 山本真緒 高林愛希 吉田実希	水質係	統括主任研究員 指導研究員 主任研究員 主任研究員 主任研究員 主任研究員	城山二郎 浦西克維 辻本真弓 長尾舞 浦西洋輔 平井佐紀子

### 3. 施 設（試験研究施設のみ）

#### (1) 土 地

（令和2年4月1日現在）

地 名	地 目	面 積	現在の状況	所 有 者
桜井市栗殿 1000 番地	宅 地	8,741.86m <sup>2</sup>	宅 地	奈 良 県

#### (2) 建 物

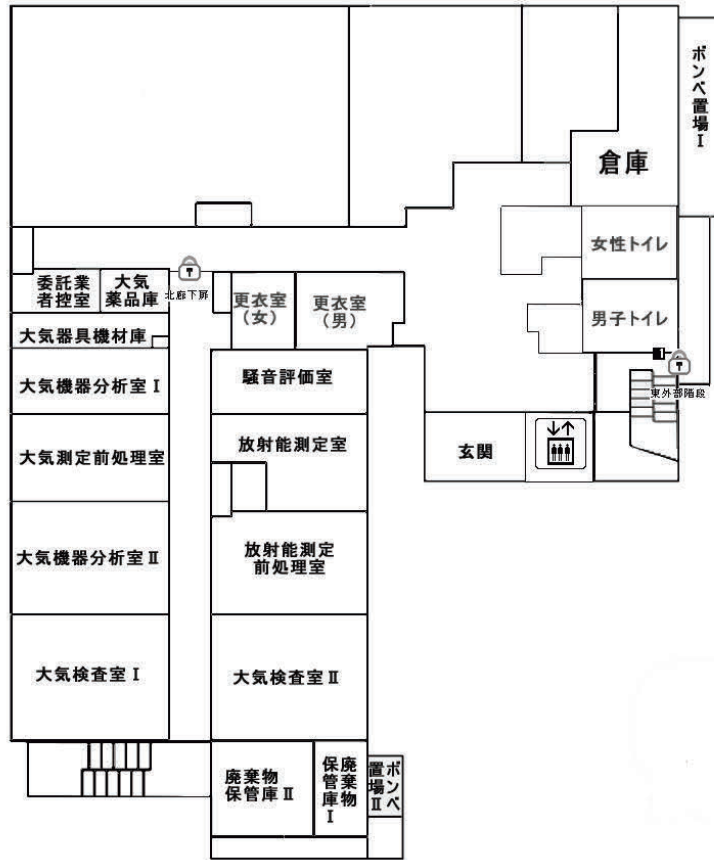
（令和2年4月1日現在）

施 設	面 積	使用開始年月日	建物経過年数	所 有 者
本館鉄筋コンクリート 4 階	3,264.17m <sup>2</sup>	平成 25 年 4 月 1 日	7 年	奈 良 県
（ 本 館 1 階 ）	(860.13)			
（ 本 館 2 階 ）	(786.77)			
（ 本 館 3 階 ）	(786.77)			
（ 本 館 4 階 ）	(786.77)			
（ 本 館 P1 階 ）	(43.73)			
倉庫	7.00	平成 25 年 4 月 1 日	7 年	

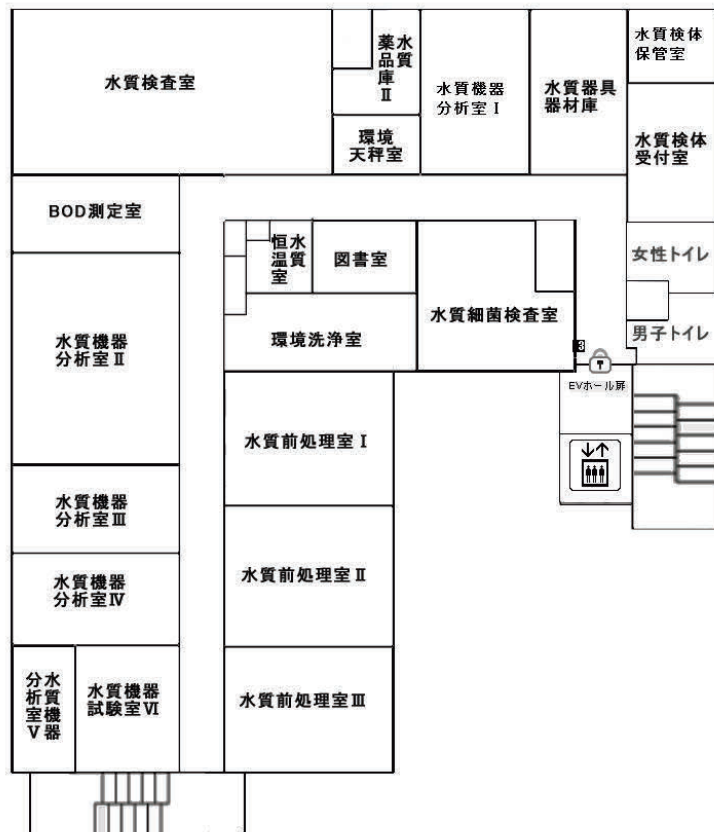
※大気係は1階西棟，水質係は2階全棟にて試験研究を実施.

(3) 奈良県景観・環境総合センター試験研究施設 配置図

(1階)



(2階)



#### 4. 新規購入備品（単価 20 万円以上）

品 名	規 格	購入年月日
ヘッドスペース ガスクロマトグラフ質量分析装置	島津製作所(株)製 HS-20/GCMS-QP2020NX	R1.8.30
卓上型濁度計・色度計	日本電色工業(株)製 WA6000T	R2.2.20
紫外可視分光光度計	Thermo Fisher Scientific社製 Evolution 220	R2.3.13
キャニスターサンプリングタイマー	エンテック社製 TM1200S	R2.3.16

#### 5. 予算及び決算（平成 31 年度）

##### 検査手数料（証紙収納額）

（単位 円）

種 別	内 訳	予 算 額	証紙収納額
景観・環境総合センター手数料	大気試験	143,000	0
	水質試験	3,023,000	2,893,130
合 計		3,166,000	2,893,130

##### 歳 出

（単位 円）

款・項・目	予 算 額	支 出 額	残 額
(款) 医療政策費	329,000	313,213	15,787
(項) 保健予防費	329,000	313,213	15,787
(目) 保健研究センター費	329,000	313,213	15,787
(款) くらし創造費	25,736,050	23,767,201	1,968,849
(項) 環境管理費	25,736,050	23,767,201	1,968,849
(目) 環境保全対策費	17,409,000	16,432,065	976,935
(目) 廃棄物対策費	8,327,050	7,335,136	991,914
合 計	26,065,050	24,080,414	1,984,636

\*景観・環境総合センター大気係および水質係執行分のみ計上（人件費を含まず）

## 6. 企画情報関連

### (1)職員の出席した学会，研究会，講習会，研修会等

#### i) 大気係

年・月・日	内 容	開 催 地
H31. 4. 5 4.23～26	FFT セミナー「基礎からわかる FFT アナライザー」 環境放射能分析研修「環境試料の採取及び前処理法」	横浜市 千葉市
R 1. 6. 5 6. 6 6.25～26	第 12 回食品分析 SEG-EMS (ゲルマニウム検出器) セミナー Dionex IC 技術説明会 2019 II 型共同研究「光化学オキシダント及び PM <sub>2.5</sub> 汚染の地域的・気象的 要因の解明」キックオフ会合	東京都 豊中市 つくば市
9. 6 9.18～20	全国環境研協議会 東海・近畿・北陸支部総会 第 60 回大気環境学会年会	大津市 東京都
10.17 10.25	低周波音測定評価方法講習会 第 13 回食品分析 SEG-EMS (ゲルマニウム検出器) セミナー(中級)	大阪市 東京都
10.28～11. 1 10.31	アスベスト分析研修 全国環境研協議会企画部会騒音振動担当者会議	所沢市 東京都
11. 5～6 11.14～15	II 型共同研究 オキシダント関係グループ会合 第 46 回環境保全・公害防止研究発表会	つくば市 津市
11.15 11.25～26	第 37 回全国環境研協議会 東海・近畿・北陸支部共同調査研究 (越境/広域大気汚染) 勉強会 II 型共同研究 PM 高濃度気象解析グループ会合	大津市 つくば市
12.17	微小粒子状物質 (PM <sub>2.5</sub> ) の測定精度に関する説明会	大阪市
R 2. 1.21 1.22 1.23 1.23～24 1.23～24 1.28 2.13～14 2.25～26	全国環境研協議会総会 地方公共団体環境試験研究機関等所長会議 II 型共同研究オキシダント PM グループ東海近畿チーム打ち合わせ 第 34 回全国環境研協議会 東海・近畿・北陸支部研究会 化学物質環境実態調査環境科学セミナー 環境放射能分析研修「放射線の人体影響概論」 第 35 回全国環境研究所交流シンポジウム Waters システム操作説明会	東京都 東京都 大阪市 大阪市 東京都 千葉市 つくば市 桜井市

#### ii) 水質係

年・月・日	内 容	開 催 地
H31. 4.26	ビーエルテック 告示及び JIS K 0102 ならびに JIS K 0170 の改正に伴 うセミナー	神戸市
R 1. 6. 6 6.11 7. 1	Dionex IC 技術説明会 ビーエルテック 第 7 回オートアナライザー・メンテナンスセミナー II 型共同研究「WET 手法を用いた水環境調査のケーススタディ」	豊中市 名古屋市 村山市

7.19	質量分析フォーラム 2019	大阪市
8. 7	FT-IR サマーセミナー2019	大阪市
9. 5	第 43 回瀬戸内海水環境研究会議	広島市
9.30～10.11	環境汚染有機化学物質分析研修	所沢市
11. 4	環境 DNA 学会公開シンポジウム	神戸市
11. 7～8	II型共同研究「LC-MS/MS による分析を通じた生活由来物質のリスク解明に関する研究」	仙台市
11.14～15	第 46 回環境保全・公害防止研究発表会	津市
12.23	II型共同研究「WET 手法を用いた水環境調査のケーススタディ」	熊本市
R 2. 1.23～24	第 34 回全国環境研協議会 東海・近畿・北陸支部研究会	大阪市
1.23～24	化学物質環境実態調査環境科学セミナー	東京都
2.13～14	第 35 回全国環境研究所交流シンポジウム	つくば市
2.21	令和元年度全国環境研協議会東海・近畿・北陸支部有害化学物質部会	桜井市

(2) 当センター職員を講師とする講演会、技術・研修指導

年・月・日	内 容	対 象 者	担 当
R 1.10.8～10.11	平成 31 年度奈良県立医科大学公衆衛生学実習	奈良県立医科大学 医学部 4 年生 4 名	水質係

(3) 当センターで開催した会議

年・月・日	内 容	出 席 者	担 当
R 2. 2.21	令和元年度全国環境研協議会 東海・近畿・北陸支部有害化学物質部会 (於：奈良県保健研究センター会議室)	地方環境研究所職員等計 31 名	水質係

(4) 国立環境研究所・地方環境研究所との共同研究

地方公共団体環境研究機関等と国立環境研究所との第 II 型共同研究

- 「WET 手法を用いた水環境調査のケーススタディ」水質係 平井佐紀子 長尾舞  
「LC-MS/MS による分析を通じた生活由来物質のリスク解明に関する研究」水質係 浦西洋輔  
「光化学オキシダント及び PM<sub>2.5</sub> 汚染の地域的・気象的要因の解明」  
大気係 杉本恭利 山本真緒 吉田実希

(5)景観・環境総合センター研究発表会 ※詳細は本誌第3章第5節(2)参照

i) 令和元年 6月28日

- 「大気中 PM<sub>2.5</sub> での局所的汚染事例における要因同定について」 大気係 山本真緒  
「WET 法による紀の川水系の生物影響評価について」 水質係 平井佐紀子  
「コンピューターシミュレーションによる環境中における化学物質の動態把握について」 水質係 浦西克維

ii) 令和2年 2月28日

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止

(6)外部評価制度

i) 外部評価制度の導入

調査研究業務に客観的かつ公正な評価を加え、調査研究の充実とその成果の普及を図ることを目的に、平成19年度から保健環境研究センターとして外部評価制度を導入している。

平成25年度からは、保健環境研究センター大気環境担当・水環境担当が、景観・環境総合センター大気係・水質係へと組織変更され、保健環境研究センターは保健研究センターと名称変更されたが、外部評価制度は両者合同で行っている。

外部評価委員 (平成31年4月1日現在)

	氏名	所属
委員	矢野 寿一	奈良県立医科大学
委員	多賀 淳	近畿大学
委員	須崎 康恵	奈良県立医科大学
委員	瀬戸 繭美	奈良女子大学
委員	山田 誠	龍谷大学

ii) 令和元年度評価対象となった調査研究(当センター分のみ抜粋)

担当	主任研究者	課題名	共同研究者
大気係	杉本 恭利	奈良県における大気粉じん中六価クロムの濃度調査	山本 真緒 吉田 実希
水質係	浦西 洋輔	紀の川水系における農薬残留実態調査	浦西 克維

iii) 外部委員による総合評価

令和元年度の調査研究について、全体を通じ次のように評価された。

- ・学会発表や年報掲載だけでなく、学術誌へ投稿することを期待する。
- ・丁寧な実験を行い、既報の調査も十分にしたうえで、各方法論の最適化、高度化を実現している。
- ・業務が多く負担が大きいだろうが、今後も継続して、積極的に調査研究することを望む。
- ・研究目標に対し、一定の成果が得られた。
- ・一般市民からは成果の重要さの理解が困難と感じられる。特にリスク評価の部分は平易な言葉で説明すると、リスクコミュニケーション面でより高く評価できる。
- ・研究分野の背景などを引用し、研究結果をどのようにつなげていくかを明確にする必要がある。



#### iv) 外部委員による個別評価

外部委員による評価は、①目的・目標の達成度、②県民・社会的ニーズへの波及効果、③行政施策への貢献度、活用性、④成果の学術的意義、⑤今後の発展性の観点から行われる。

それぞれについて、5段階評価で行い各委員の平均で表した。

